



アンネのバラ

吉高人権だより

2022年 11月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

働く

国語科 小山 由貴

娘のベッドを購入したときのことである。中学に上がる前の春休みに、家具量販店で購入し、家に配送してもらった。配送の方が帰ったあと、装飾品の一部がとれていることが分かった。私は、現品限りの特価品、たかが子どものベッドの、表には見えない部分の装飾なのだから、これでいいと思ったが、夫はお店に連絡した。クレマーまがいの電話など恥ずかしい行為だと思い、夫を説得したが、聞かなかった。不具合をお店に伝えると、すぐに新品のベッドを無料で配送し直すとのことだった。申し訳ないと思った。すると、私たちのやりとりを見ていた娘が言った。「ベッドを持ってきた人、おじいちゃんと同じくらいの歳やった。汗をびっしょりかいて運んでくれた。大丈夫？」夫は再度、お店に連絡し、新品の再配送を断り、お礼を伝えていた。

商品について責任を持たなければならないということはお店の務めであり、誠意をもって即座に対応していただいたことをありがたく思った。夫は仕事の厳しさを娘に伝えていたのかもしれない。同時に、一生懸命に働く姿は、人の心を動かすものなのだと痛感した。正確な仕事と人の心をゆさぶる働きぶり。どちらも働く上では大切なことである。

数年前に、インターンシップを終えた先輩（当時高2）が考えた「働く」観を紹介したい。

○先輩A 「好きなこと」を仕事にしている人が多いと思うが、絶対に「嫌なこと」を仕事にする人がいないと、この社会は成り立たない。「好きなこと」だけを仕事にしていたら、ゴミを集める人もいないし、助けを呼んでも来ないかもしれない。どの仕事もきっと「やりがい」があると僕は思う。「この仕事は嫌だけどきっと誰かのためになっている」「自分がこの仕事をやることで、見えないところで笑顔になっている人がいる」それだけでも十分なやりがいだと思う。

○先輩B 「絶対になりたい、就きたい、叶えたい」と思っているてもできないことはある。自分の夢だけで生きていくのは難しいと思う。努力して夢を叶えられる人がいるが、努力が報われず違う道に進まないといけないこともある。でも夢を持つことは悪くないと思う。好きなことは自分をわくわくさせてくれる。したいことは、自分を前向きにさせてくれる。そのわくわくと前向きな気持ちが一緒になったらどんな自分になれるだろうか。きっと輝いていると思う。

冒頭の娘は、ベッドのことを忘れていた。でも、働くときには、あの日の「おじいちゃん」のことを思い出してほしい。

【人権・同和教育講演会】



11月25日（金）6限目、今治のみんなで人権を考える会「ころん」の代表西山博（にしやま ひろし）先生を講師に、「部落差別の解消は、身近な差別に気づくことから」というテーマで人権・同和教育講演会がオンラインで開催されました。

まず、近年相次いだ政治家の失言に触れ、失言はそう思っているから口に出してしまう、それを防ぐためには自分の心の中の差別につながる要素を減らすしかないこと、その要素を減らすには「正しく知ること」が重要であることを強調されました。

次に身近にあるさまざまな場面を通して「これって差別？」かどうかを判断するクイズが行われました。このクイズについて考える中で、公平や公正、合理的配慮、身元調査はその行為自体が差別につながることを学びました。また、被差別部落で生まれた子どもは差別を受けるのか？という問題では、差別を受けるか、受けないかはわからない、なぜなら、差別されるかどうかは差別する人が決めるからであって、差別する人がいなければ差別されないこと、いじめも同じ構造であることを学びました。

最後に誰もが暮らしやすい社会は、身近な差別に気づくことからということで、「血筋の幻想」から脱却すること、「ミソジニー（女性蔑視）」を無くすことが日本の課題であると触れられました。まとめとして、若い人がこれからの社会をつくるので、人権が尊重される社会になるためには、おかしいことをおかしいと言える人権感覚を身に付けることが大事であること、差別をする人になるのか、それとも差別をなくす人になるのか？と話を結ばれました。

さて、講演の中で男女の制服の話が出てきました。今年の1年生からは組み合わせ自由のLGBTQの人にも配慮したジェンダーフリーの制服になりました。吉田高校の取組はすばらしいと講師の先生に言われましたが、制服を変えただけではLGBTQの人に配慮できたことにはなりません。女子がスラックスをはくのと同様に、男子がスカートをはいても周囲から好奇の目で見られたり、偏見の声を浴びせられることが無く、それを多様性として認めることができる集団なのかということが問われてきます。もちろん、女子がスラックスをはいてもLGBTQであるとは限らないように、男子がスカートをはいてもLGBTQだとは言えないし、その人がLGBTQだとカミングアウトしているわけでもありません。ましてや、その人が了承していないのに勝手にうわさしたり、憶測で人に話をするのは、アウティングという人権侵害になります。

吉田高校が新しい制服にふさわしい学校になるには、みなさんの普段の行動が大きな意味を持っています。